

## ひょうご人生100年時代プロジェクト推進委員会（第8回）議事要旨

- 1 日 時 令和2年7月15日（水）10時00分～11時50分
  - 2 場 所 兵庫県民会館7階 亀の間
  - 3 出席委員 藤原久義（委員長）、上村敏之、小林由佳、杉村和朗、武久洋三、  
名須川知子  
〔欠席委員〕大和三重、笹嶋宗彦、空地顕一、邊見公雄、米沢なな子  
（事務局）入江福祉部長、石川社会福祉課福祉政策参事、東社会福祉課班長、木下  
社会福祉課主査  
（陪 席）生安社会福祉局長、味木健康局長、山下感染症等対策室長兼疾病対策課  
長、藤原健康局参事兼健康増進課長、坪井高齢政策課長、藤本こども政  
策課長、柏木病院局企画課長、川井病院局管理課参事
- #### 4 議事等
- (1) 委員長の選出
  - (2) 提案書(案)に係る意見交換
  - (3) 小委員会の設置
  - (4) その他

### 【議事等の概要】

#### (1) 委員長の選出

委員会設置要綱第5条第2項の規定による委員の互選により、藤原久義委員が委員長に再任された。また、藤原委員長が委員長職務代理者に杉村和朗委員を指名した。

#### (2) 提案書(案)に係る意見交換

##### ア 人生100年時代から見たコロナ対策

藤原委員長による人生100年時代から見たコロナ対策について説明の後、意見交換を行った。

##### 《主な意見》

- 病院の経営が悪化しており、国民に対する医療に弊害が出るため、特に公的病院に対する運営支援が必要。
- 大学病院でも収入が減少しており、債務負担金の繰り延べを検討している。
- 緊急的に病院に資金を注入することはあり得るが、何を基準とするかは難しい。
- 神戸大学の調査では、新型コロナウイルスの抗体所持率は兵庫県で0.1%。スウェーデンで15～20%等ということを鑑みると、罹患して抗体を持つという戦略は日本では取れない。
- 高齢者が新型コロナウイルスの感染を恐れ外出しないため、フレイルが悪化する恐れがある。
- 安全に家庭内でいかに健康を保つかが大きなテーマ。
- 神戸大学ではコグニケアをモバイルで実施するためのプログラムを作成中。

- 新聞のコア読者は高齢者であるが、パニック状態にある。情報の伝え方が難しく、工夫が必要。双方向でないと誤解を生む。
- 若い人に学びの場を提供できていないことが問題であり、それが社会的に許容されていることもおかしい。若者は罹患しても重症化しない。
- 訪問看護や体操の人が高齢者を訪問してくれると、高齢者が心配なことを相談でき、正確な情報が届けられる。
- パソコンを使えない高齢者の大きな情報源はテレビ。体操等、もう少し高齢者をターゲットにした番組があれば、元気な高齢者が増えるのでは。
- 要介護度は要治療度ではない。高齢者もきちんと治療する。
- 人生会議は、実際にはなかなか難しい。

## イ 各委員意見について

小林委員、上村委員、名須川委員から、新型コロナに係る課題や提案などを説明し、意見交換を行った。

### 《主な意見》

- コロナに関するニュースに対し需要が増えている。パニックになっている受け手に対しどのように伝えるか難しい。記者も専門家ではなく、専門家の意見も異なっている。発信側の課題はいかに記者が専門知識を得ながら伝えるか。
- 情報の発信の仕方次第ではパニックを誘発するので、双方向での情報発信にチャレンジする必要がある。
- スマホを持っていない高齢者に対し、紙では伝えきれない情報をどのように伝えるかに苦勞しているが、ビジネスモデルにもなる。各社力を入れており、チャンスでもある。
- 政府の補正予算は、社会変革のスピードを高め、新たな兵庫県の未来を構築するために活用すべき。
- 兵庫県の人口減少を食い止めるには、情報A I化への技術革新と社会実装に加え、第3子以降の子供への前倒し給付等、大胆な少子化対策が必要。
- 若年世代の流出を防ぐには、A I支援を充実させ、在宅勤務やA I教育を整備すべき。それにより、近年注目されている「半農半X」のような多様な生活スタイルも提供できる。
- 行政と企業のデジタル化の推進も必須。
- 総合医は必要であり、兵庫県の総合医の提案は非常にいい。
- 子どもたちが住みやすい町は、安全・安心な町。
- 子供は人と接して成長するため、そのかけがえのないチャンスが奪われているのが現状。大きな社会問題となる。
- テレワークにより、男性の家庭での育児時間が増え、男性の育児役割意識が出てきているのでは。

- 地域子育て支援センターにシニア世代を活用することにより、子供を中心にした高齢者支援にもなる。
- 医療従事者の子供を預かる際の差別は問題であり、管理者教育や保育者研修を充実し、正しい知識を持って保育できるようにすべき。
- 兵庫県に縦の道路を作り、人口密接を防いではどうか。
- 子供を核にした地域の試みは、母親ばかりで終わりにせず、男性や高齢者、外国籍の方等にも参加を求め、多様な地域の核づくりとすべき。
- 兵庫県では大学生の人口移動も問題であり、同時に対策が必要。

### (3) 小委員会の設置について

今後、集中的に検討を進めるため、小委員会を設置。今後は小委員会で検討し、ある程度まとまった段階で全体会を開催することとし、小委員会のメンバーについては、後日事務局から連絡することとなった。

### (4) その他

政府の全世代型社会保障検討会議第2次中間報告について事務局から説明。後日メールで意見を伺うことを依頼した。

以上